

会 議 録

(文責：森山)

会議の 名称	第2回 那珂川市都市計画マスタープラン策定委員会		
開催日時	令和元年 11 月 13 日 (火) 19:00～21:00	開催場所	第2別館2階 大会議室
出席者	<p>1. 委員 第1号委員：森山委員 第2号委員：大橋委員、宮本委員、比嘉委員、築地委員 第3号委員：田上委員、成田委員、三谷委員、阿河委員、結城委員、木藤委員 第4号委員：上野委員、木村委員 ※欠席：野上委員（第1号委員）、村山委員（第2号委員）、工藤委員（第2号委員） ※代理出席：委員（野上委員の代理）</p> <p>2. 事務局 桐谷都市計画課長、鶴田土地活用・計画担当係長、森山</p> <p>3. その他 (株)玉野総合コンサルタント 2名</p>		
配布資料	<p>次第 資料1 委員名簿 資料2 現行計画に基づく取り組みについて 資料3 分野別現況と課題の整理 資料4 「目指すべき都市のすがた」について 資料5 パネル展示・意見聴取会資料 参考資料 検討用基礎資料</p>		
公開区分	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">開示</div> ・ 一部開示 ・ 非開示		
<p>議題及び審議の内容</p> <p>1. 開会 事務局：第2回那珂川市都市計画マスタープラン策定委員会を開会する。</p> <p>2. 委員紹介 <前回欠席の委員による自己紹介></p> <p>3. 議事 会長：まずは現行計画に基づく取り組みについて、事務局から説明を。 <事務局より、資料2について説明></p> <p>会長：資料2について、なにか質問や確認事項はあるか。</p>			

委 員 : 安徳大塚古墳の保存活用計画を策定したということだが、もう一つの国史跡である安徳台についての計画はどのようになっているか。

事 務 局 : 安徳台についても、今後保存活用計画を作成する予定である。

委 員 : 安徳大塚古墳と安徳台は、地理的にも近いので、一体的に保存活用をしていく必要があると思う。

デマンド交通の実証運行について、どのあたりの地域で行ったのか。

事 務 局 : 市ノ瀬地区や、西畑地区、戸板地区、妙見地区などの集落で行った。バス停から遠い、勾配が急などの条件により、とくに既存の公共交通へのアクセスが難しいと考えられる地域で実施している。

委 員 : デマンド交通は、かわせみバスよりも小さい車両で運行しているのか。

事 務 局 : タクシー車両で運行している。

委 員 : 実証運行を経て、今後本格的な運行に移行するということか。

事 務 局 : 来年度から本格運行を実施する。運行する範囲としては、バス停から 300m 以上離れているエリアを考えている。これまではかわせみバスで住宅団地などをくまなくカバーするような路線を組んでいたが、利用者が少なく収支の状況が厳しいため、必要なときに利用してもらえるデマンド交通を取り入れることになった。

会 長 : 安徳大塚古墳と安徳台の整備については、別々の計画で行うということではどうか。

事 務 局 : 安徳台についても個別の保存活用計画を策定するが、安徳大塚古墳と一体的な整備、保存活用をする方針であると担当課から聞いている。

都市計画に関連が深い部分としては、遺跡の周りの景観の保全・形成が課題であるととらえている。

委 員 : ④「誰もが安心して快適に暮らせるまち」についての取り組みとして、急傾斜地対策工事や河川改修が挙げられているが、現在の進捗状況を教えてほしい。

事務局：急傾斜地対策工事や那珂川の改修は、県が実施している事業である。河川の改修については、平成21年の水害を受け、那珂川を改修する床上浸水対策緊急事業が開始された。事業はすでに終了しているが、現在も別のかたちで継続されている。今年度、安徳地区の工事が完了したところである。山田地区や別所地区の工事完了まで、約5年間かかる見込みであると県から聞いている。急傾斜地対策工事については、順次県によって実施されており、最近では県道後野福岡線沿いの急傾斜地や、西隈地区の急傾斜地の対策工事が行われている。

会長：市が単独で行っている事業はあるか。

事務局：那珂川は県が管理する河川なので、県が事業を行っている。

会長：続いて、分野別の現況と課題について、および「目指すべき都市のすがた」について、事務局から説明を。

<事務局より、資料3、資料4について説明>

委員：4ページの低未利用地の発生状況について、農地も低未利用地に含まれているか。

事務局：農地は含まれていない。宅地化されている土地で、建物が無い土地を低未利用地として示している。

委員：5ページに都市構造・人口構成に関する上位計画として区域マスタープランが紹介されているが、土地利用などほかの項目にもかかわる計画ではないか。

事務局：区域マスタープランは都市計画の全体に関わる上位計画であると理解しているため、最初の項目で紹介している。その他の項目にも当然関わりがある計画である。

委員：立地適正化計画を先行して策定中と聞いている。関連する計画として記載したほうがいいのではないか。

事務局：策定中なので記載していない。都市マスと関わりが深い計画であり、検討にあたっては当然考慮する必要がある。

委員：4ページに、低未利用地の点在という現状が示されており、いわゆる都市のスポンジ化が進んでいるということである。一方で、新市街地の創出を

するという方針があり、現状と合っていない。また、人口減少が予測されている中で、新たに市街地を拡大するという事も、社会情勢に合っていないのではないかと感じる。新市街地の創出を検討する理由をしっかりと整理してほしい。

事務局：低未利用地については、駐車場として利用されている土地がほとんどなので、都市のスポンジ化といわれるような空き地が点在している状況とは異なる現状である。

委員：都市のスポンジ化とは、市街地内に駐車場が点在しているような、まさにこの状況を示す言葉だと認識している。

事務局：建物が建っていた土地が空き地になるなどして、使われていない土地が市街地内に点在することを都市のスポンジ化として認識している。

また、新市街地の創出を検討する理由であるが、本市の場合はすでにコンパクトな市街地が形成されており、市街地内の開発余剰地が非常に少ない状況にある。一方で、人口は将来的には減少局面に入ると予想されるものの、現在は微増傾向にある。今のうちに市街地の利便性を強化しておきたいという考えがあり、立地適正化計画を策定したうえで計画的に新市街地を創出し、拠点として機能強化をしていくという考えで取り組みを進めている。

委員：現在はマイカー利用率が高く、駐車場に対するニーズも高い。都市のスポンジ化として連想されるような、空き店舗や空き地が点在しているような状況とは異なっている。

委員：小規模で柔軟な区画整理などの手法を活用して、低未利用地を集約し利便性を高めるというトレンドがある中で、安易な新市街地の創出は社会情勢に逆行しているように感じる。低未利用地を集約する努力をした結果、新市街地を創出せざるをえないという状況なら納得できるが、しっかりと理由を整理してほしいと思う。

委員：現状の主な移動手段や都市構造のあり方を一気に変えるつもりなら、駅前に都市機能を集約すればよいという話になると思うが、そのような一極集中型のコンパクトシティ論は、市の現況をみると現実的ではない。現状の都市構造を活かすことを考えると、新市街地を含めたいくつかの拠点で構成される多極的なコンパクトシティを目指すという方針になると思う。

委員：9ページに都市計画公園の整備状況が示されているが、例えばグリーンピアなかがわのような施設は該当しないのか。

事務局：都市計画に定めて整備をする公園が都市計画公園で、都市計画区域内に設けられる公園が都市公園である。グリーンピアなかがわも公園と同じような機能を有する施設であるが、都市計画公園や都市公園には該当しない。

委員：11 ページをみると、バスの運行本数や利用者数が増加している一方で、アンケート結果における満足度が非常に低い。原因がわかれば教えてほしい。

事務局：原因の分析はしていないが、要素として、市南部を運行していた西鉄バス路線の廃止が考えられる。廃止路線を補完するよう、かわせみバスを運行しているが、以前は西鉄バスで直接大橋まで行くことができたので、その点で不満があると推測している。また、公共施設にアクセスする路線の便数増加に関する要望も多い。

委員：公共交通に不満があると答えている人は、春日市や筑紫野市などと比較して、電車の路線がないことに不満を感じていると思うので、バスの運行本数を増やしても満足度は上がらないと思う。

委員：元から公共交通路線がある地域は、便数の増加を求めるので際限がない。

委員：乗りたい時間にちょうどいい便がない、行きたいところに直接アクセスする路線がないといった不満が多いのではないかな。

委員：それぞれのライフスタイルによって利用する公共交通が違うので、「公共交通網の整備」という大きなくくりで取ったアンケート結果はあまり参考にならないと感じる。

委員：博多南駅周辺に住んでいる人は、博多駅など福岡市の中心部で働いている人が多いので、福岡市の中心部のようなエリアと比べて交通の利便性が悪いと言っていると思う。

委員：12 ページに浸水想定区域が示されているが、五ヶ山ダムの整備や河川改修が行われたことで、どのくらい浸水リスクが減ったというような定量的なデータはあるか。

事務局：詳細なデータは把握していない。掲載している浸水想定区域は、五ヶ山ダムが供用開始された場合の区域なので、五ヶ山ダムがなければもっと区域が広がっていると思う。

委員：五ヶ山ダムができて、九千部山系のほうに降った雨が梶原川に流れるのを防ぐことができないので、河川氾濫のリスクは低減しないのではないのか。

事務局：浸水想定区域に示しているのは那珂川水系だけなので、梶原川は反映されていない。現在ハザードマップの更新を行っており、新しいハザードマップでは梶原川の氾濫危険性についても記載する予定と担当課から聞いている。

委員：都市防災については次期都市マスにもしっかり記載してほしい。

委員：少子・高齢化について、高齢化に関連する方針はいろいろな分野で説明されているが、少子化に関連する方針があまりないように感じる。少子化が進む中で、子育て世代にとって魅力的なまちづくりや、子育てしやすいまちづくりによって人口を獲得していくというような方向性はないのか。

事務局：子育て世代をはじめ若い世代の転入は、本市も促進していきたいと考えている。子育て支援については、都市計画とは異なる分野でもさまざまな取り組みを行っている。都市計画の分野でいうと、若い世代は利便性を求める傾向にあることをアンケートなどで確認しているので、利便性の向上が若年人口の獲得にも繋がると考えている。そのためにも、拠点の機能向上や公共交通ネットワークの強化に取り組んでいきたい。

委員：保育園や小学校などの施設は充足しているのか。

事務局：人口にあわせた施設の整備は難しいところである。保育園の新設は行われている。

委員：7ページを見ると、働く場所の確保が必要と感じている人の割合が高い。企業誘致などの取り組みもすでに行っていると思うが、新市街地において働く場所の確保としてなにか考えていることはあるか。

事務局：企業誘致の取り組みを行う中で、企業が立地する土地がないという課題が出てきている。工業団地のようなものを作る計画はないが、新市街地において商業施設の立地を予定しているので、雇用の創出になると期待している。また、まだあまり実行に移せていないが、空き店舗や空きビルが発生した場合、オフィスを誘致するような都市型の働き方を提案することも必要だと感じている。

委員：資料4の⑤「環境に優しいエコロジカルなまち」や①「自然と文化・歴史を感じることができるまち」は、全体に関わるような視点だと思うので、「市

民協働による実現」と同じように縦軸に位置付けるなど工夫が必要だと思う。

事務局：5つの方針については次期都市マスでも基本的には引き継ぐことを考えているが、書き方については検討したい。

委員：調整区域内に存在する住宅団地について、なにも方針が記載されていない。今後の方針は。

事務局：調整区域内の住宅団地に、積極的に人口を誘導する考えはない。

委員：冠が丘団地や御迎団地は、開発された当時は住宅地として分譲をしているので、今後も住宅地として存続するべきだと思う。

事務局：コミュニティの維持は必要と考えているが、団地ができた当時とは社会情勢が異なることもあり、今後居住を誘導するのは市街地のエリアであるので、調整区域内の住宅団地に積極的に居住を誘導するのは難しいと考えている。

委員：コンパクトで便利なまちという言い方はとても聞こえがいいが、便利すぎると自分で考えなくなるのでいい面ばかりでもない。便利さだけを追求するような都市計画でなくともいいと思う。

委員：那珂川市らしいコンパクトシティとはなにかということを今後議論していきたい。資料4に課題と方針が整理されているが、市の現状からみるとどのような取り組みを優先して行うべきなのか、考える必要があると思う。

委員：安全な地域への居住誘導という話があったが、安全をアピールしすぎると油断してしまう面もあると思う。

委員：実際に災害が起きたときにどうするかといったことは、別の計画で詳細に検討するところなので、都市計画上の取り組みとしては居住の誘導ということになると思う。

優先順位や重要度、ここまでは計画期間内に達成するというような目標やストーリーがあるとよいと思う。

委員：コンパクト+ネットワークを推進する背景には、将来的に人口減少によって現状の規模の行政サービスが維持できなくなる可能性があるという問題意識がある。将来はこの規模までしか行政サービスを維持できないというような、持続可能性を区域や数値で示して居住を誘導することはできないのか。

委員：交通は不便だけどいいところ、というように開き直ったほうがいいと思う。

委員：郊外に住むと交通の便は悪いが自然豊かな地域で広い住宅に住むことができ、都市部に住むと住宅は狭いが交通の便がいいというように、いい面も悪い面もあるということだと思う。元からその地域に住んでいる人は別だが、その地域を選んで移り住んできた人は、交通の便が悪いというデメリットよりも、自然豊かな地域や広い住宅などのメリットに注目しているはずなので、交通については仕方ないと割り切れるのではと思っている。

委員：南畑地域では、市が移住促進の施策を行っている。移住してきた人に話を聞くと、福岡市内にはないような自然の豊かさに惹かれて南畑を選んだという意見が多い。交通が不便で通学が大変だという声もあるが、家の前に大規模な交通施設のようなものができて今の自然豊かな環境が変わるのは反対という人がほとんどだと思う。

委員：糸島に移住した人からも同様の話を聞いている。公共交通は、ないよりはあったほうがいいという人が多いと思うが、どこまで要望に応じていくか考える必要があると思う。

委員：最近はシェアリングエコノミーのトレンドがあり、交通の面でも空いている車をみんなでシェアするようなスタイルができ始めている。

委員：公共交通はインフラとしてまんべんなくサービスを提供するべきという考えもあるので、一概には言えないが、20年後にバス事業が成り立っているかわからないような状況の中で、今のような議論も必要だと感じている。

会長：「将来の都市のすがた」について、本日の議論を踏まえて多少の修正はあると思うが、基本的には次期計画でも現行計画の5項目を引き継ぐということである。

計画的な新市街地の創出については、長年の目標でもあり、次期計画にも引き継ぐということである。

調整区域内の住宅団地の話が出たが、誘導区域外の集落や団地をどうしていくかということは全国的な課題になっているところである。

景観について、景観の規制・誘導という方針が示されている。また、周辺都市との差別化という方針が新しい視点として示されている。この点について何か意見等はないか。

委員：③「少子・高齢化に対応したまち」に対応する方針が1つだけなの

が気にかかる。ほかにも対応する方針があるのではないか。

委員：個性的、魅力的という言葉がよく出てくるが、最終的にどのような形で計画に示すか難しい部分である。

行政計画の性格上、どこまで明確に示すことができるかわからないが、何らかの形で優先度や力をいれる部分を示すような、思い切ったものにしていくことができるかがポイントになると思う。

委員：景観の分野について、南畑地域で取り組みを行っているという話があったが、国道 385 号の交通量増加に伴い、今後国道沿いにお店や看板が増えた場合に景観が損なわれることを防ぐため、地元で議論を始めているところである。今後話が進めば都市マスにも反映できるのではないかと考えている。

景観に関する現況について、市内の公共施設でよいデザインのものが増えてきていることも付け加えてほしい。SUMITSUKE 那珂川や、五ヶ山クロス、博多南駅前ビルなど、よいデザインの公共施設が景観を作っていくという流れができ始めていると思う。

委員：新市街地の区域について、とくに山田地区と西隈地区は水害に対し脆弱な地形なので、都市機能誘導の際は水害対策をしっかりとる必要がある。

会長：景観について、新市街地ではまちづくりガイドラインや建築協定も検討できればよいと思うので、次期計画にはしっかりと盛り込んでほしい。

委員：博多南駅の周辺が、人通りの多さの割に雑然として特徴や魅力がないように感じている。市の顔になる地区なので、那珂川市らしい魅力を備えた地区にしたい。博多駅へのアクセスのよさを活かして、博多駅周辺にあるオフィスを博多南駅周辺に誘致するなど、工夫できないか。

委員：博多南駅ビルを運営している観点から意見を述べると、博多南駅で乗降する人は多いが、駅周辺で時間を使うことなくバスや車で自宅に帰ってしまう。原因として、博多南駅周辺の都市機能の不足もあると思うが、博多駅ですべて用事を済ませてから帰ってくるというライフスタイルが確立してしまっていることが大きいと考えている。現在、駅ビルの3階を貸オフィスにしているが、すべて埋まっている状況である。博多駅へのアクセスのよさと、賃料の低さが魅力になっていると思う。今後企業誘致などに繋がっていく可能性を感じている。

会長：博多南駅周辺には都市的な景観を形成し、五ヶ山ダムなど市南部のほうでは自然の景観を保全していくような位置づけである。行政の活動によって達成していくだけでなく、民間の活動によって達成していく分野でもあると思

う。

4. 報告

会 長 : 次に、報告事項について、事務局から説明を。

<事務局より、資料5について説明>

5. その他

・次回委員会は2/20(木)19時～

6. 閉会

事 務 局 : 第2回那珂川市都市計画マスタープラン策定委員会を閉会する。

(終了)